

1 国内研修

日 時：11月14日（水）～11月16日（金）

場 所：全国市町村国際文化研修所（JIAM）

2012年11月14日（水）から16日（金）までの3日間、全国市町村国際文化研修所（JIAM）において国内研修が行われた。東京都における国際交流についての事例紹介や、シンガポール・インドネシア両国に関する政治・社会・文化・歴史等の概要、日本と両国との経済交流についての講義を受けた。



講義を聴講する参加者

1 第1日目 [11月14日（水）]

(1) 事例紹介：東京都の国際交流について

講 師：東京都知事本局外務部共同事業調整主査 宮崎 晶子 氏

〈概要〉

以前の首脳同士の儀礼的な会合から、現在はより実務的・具体的な交流へシフトしており、代表的なものに「アジア大都市ネットワーク 21」がある。これは、アジアの大都市が連携して活動し、諸問題を提起することで、アジアのプレゼンスを世界的に高めることを目的に開催しており、シンガポールやインドネシア・ジャカルタを含むアジア各地から現在 13 都市が参加している。この中では、感染症対策や危機管理ネットワーク構築など合計 12 のテーマを掘り起こし、各参加都市間で共同事業を実施している。

(2) 演習

演習では、海外研修で実施する「日本語学習者（大学生）との交流事業」での発表準備のため、5班に分かれ、1班「外国語教育」、2班「食文化」、3班「ポップカルチャー」、4班「結婚式」、5班「Facebook・SNS・ブログ」についてのパワーポイントの作成を行った。

2 第2日目 [11月15日（木）]

(1) 講 義：インドネシア事情（社会、政治、文化、地理、近現代史）

講 師：東京大学名誉教授 加納 啓良 氏

〈概要〉

政治面では、近年、政治の民主化と地方分権化が進行し、民主化が進行したことの証左となる現象（デモの頻発など）も頻発している。産業に目をやると、1980年以降、都市化、産業化が進行し中間所得層が順調に拡大してきている。日本車のミニトラック「コルト」がその中で爆発的ヒットし、激しい交通渋滞の引き金となった。現在も、日本車のシェアは日本以上に高い。

(2) 講 義：インドネシアの経済事情と日本との経済交流について

講 師：独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所 東方 孝之 氏

〈概要〉

一人当たり GDP を見ると、現在のインドネシアは高度成長期の日本と似た状況である。GDP の5割以上が国内需要であり、2億4千万人の国民による旺盛な内需に世界からマーケットとして注目が集まっている。リーマンショック時も先進諸国や隣国に比べて影響が少なく、現在も年平均約6.5%の経済成長を続けている。



東方氏による講義の様子

内需を見込んで、2010年以降、日本企業の直接投資が増加しており、自動車や生活品メーカーを中心に現地拠点設置の動きが活発である。

(3) 演習・まとめ

〈概要〉

前日に引き続き、インドネシアでの大学生との交流事業のための発表準備を行った。より分かりやすい発表資料とするため、それぞれの班の発表資料の内容を共有し、改善点等についての意見交換を行った。

3 第3日目 [11月16日(金)]

(1) 講 義：① シンガポール事情 (社会、政治、文化、地理、近現代史)

② シンガポールの経済事情と日本との経済交流について

講 師：拓殖大学国際学部 教授 岩崎 育夫 氏

〈概要〉

シンガポールは資源に乏しい国であり、特に「水」はシンガポールの弱点と言われている。現在は隣国マレーシアから購入しているが、下水浄水化や海水淡水化の技術開発により、マレーシアとの購入契約が切れる2060年までに完全自給を目指している。

資源の輸出による国家の発展が望めないことから、政府や官僚がリードして産業ひいては国家の発展を目指しているのがシンガポールの特徴である。常に隣国に一步二歩先を行く国家運営を目指し、政府や関係機関による産業振興を全面的に行い、外資系企業のアジア拠点の誘致に成果を出している。近年は、政府自らアジアの他の新興国への投資も行っている。

また、人材が唯一の資源であることから、教育に非常に熱を入れており、各段階で統一試験が実施されている。大学入学前の試験における成績トップ層は、国家奨学金を付与され、欧米一流大学に留学し、その後、国家運営の柱たる官僚になる仕組が確立されている。

4 所感

国内研修の3日間を通して、シンガポール・インドネシア両国の社会・政治・経済状況等についての講義を受け、基礎知識を学習したことにより、海外研修先での内容を深く理解する上での手助けとなった。 【文責：自治体国際化協会経済交流課 川島 裕志】